

コンクリートライブラリー162
2022 年制定 コンクリート標準示方書改訂資料 -基本原則編・設計編・維持管理編-
正誤表

2023/5/22

(維持管理編)

ページ	行	誤	正
208	上から 8 行目	「・・・かぶりが小さい場合の品質低下の影響を考慮するため、最終的に次式に示すように D_I がかぶりに応じてトリリニアに変化するものとした。」	「・・・かぶりが小さい場合の品質低下の影響並びに施工等に起因する局所的な品質のばらつきを考慮するため、最終的に次式に示すように D_I がかぶりに応じてバイリニアに変化するものと仮定した。」
208	上から 10 行目	$D_I = \begin{cases} c & (c < 10) \\ 10 & (10 \leq c \leq 23.5) \\ 0.4c + 0.6 & (c > 23.5) \end{cases} \quad (4.4.5)$	$D_I = \begin{cases} c & (c \leq 10) \\ 0.4c + 6.0 & (c > 10) \end{cases} \quad (4.4.5)$
208	式 (4.4.6)	[標準附属書] 1 編 式 (解 3.3.5)	[標準附属書] 1 編 式 (解 3.3.6)
208	式 (4.4.7)	誤	$s(t) = \sum_{i=1}^t (5.0 \cdot 10^{-3} \cdot \exp(-0.025 \cdot c^2 \cdot q^2)) \quad (t > t_{cr})$
		正	$s(t) = \sum_{i=1}^t (5.0 \cdot 10^{-3} \cdot \exp(-0.025 \cdot c^2 / q^2)) \quad (t > t_{cr})$

(設計編)

ページ	行	誤				正					
		対策レベル	今回の改訂と2017年版の最大ひび割れ幅の差 (mm)				対策レベル	今回の改訂と2017年版の最大ひび割れ幅の差 (mm)			
			P=0.25%	P=0.5%	P=0.7%	P=0.9%		P=0.25%	P=0.5%	P=0.7%	P=0.9%
125	表 3.8.1	ひび割れの発生を防止したい場合	-0.13	-0.05	-0.03	-0.02	ひび割れの発生を防止したい場合	0.00	0.00	0.00	0.00
		ひび割れの発生を制限したい場合	-0.09	-0.04	-0.02	-0.01	ひび割れの発生を制限したい場合	-0.09	-0.04	-0.02	-0.01
		ひび割れの発生を許容するが、ひび割れ幅が過大とならないように制限したい場合	0.00	0.00	0.00	0.00	ひび割れの発生を許容するが、ひび割れ幅が過大とならないように制限したい場合	-0.13	-0.05	-0.03	-0.02